磐城商工時報

月三回發行（五、十五、廿五日）
發行兼編輯人印刷人 渡邊源吉
福島縣平田町二番地
發行所 磐城商工時報社
印刷所 加納活版所
廣告料 五號十四字詰一行 廿錢 場所指定 五錢增
新聞定價 一部金五錢 一ケ月十五錢 一ケ年一圓六十

本紙の大革新に就て

社長 渡邊源吉

廣告收入のみで本紙を經營する事、既に一年有余になり本社も漸く永久的基礎を確立すべき秋となりました、依て今回、本社は社員協議の結果、根本的に大革新を斷行する事に致しました即ち其の要点は

▲發行日の變更▼

從來、本紙は月三回五の日發行でありましたが何分、廣告のみを全收入としてゐたので發行日が確實でありませんでした、次號よりは月一回、小型十六頁とし購讀料を月金十二錢（税共）一ケ年一圓四十四錢（前金一圓二十錢）にし購讀者以外には絶對に頒布致しませぬ、目下、購讀勸誘中でありますから奮つて御贊成下さい。

▲年極廣告募集▼

次は年極廣告の件で料金も安く記事中に挿入するものにして、所謂、廣告の効力を主とするものであります。

▲範圍の大擴張▼

從來は無料頒布であつたので餘り遠方へは配達いたしませんでしたが今回は磐城七郡と茨城縣の一部にまで大擴張して購讀を勸誘してゐます。

▲記事の精選▼

一枚でも無代で頒布しないとの方針でありますから從て料金を頂く以上は記事は最も嚴選して讀者の期待に反しない樣にし政黨は中立、絶對に偏せず個人的感情から社會の公器たる紙上を亂用することは決して致しませぬ、御安心の上、御購讀を願ひたいと思います。

▲一枚でも次號からは無料では配達しませぬ必ず御購讀下さい、御滿足の出來る紙面を提供し讀者の增加と共に確實に發行日を增加します▼

流石に大和田君も男らしく
中野甲藏君も豪い
磐城之實業の中野攻撃斷筆
江口忠一、横山顯兩君奔走の結果

大和田與平氏經營の磐城之實業の紙上に毎號、中野甲藏氏の攻撃記事が連載されつゝありて識者をして痛恨事とされてゐたが仁俠の士、江口忠一氏は全く自發的に其の仲裁を思ひ立ち双方何れにも何等の關係なく單獨の意志發動に依りて奔走し河北新報平支局長横山顯氏、之れに加はり無條件にて妥協成立し中野氏は大和田氏の筆誅を好意ある忠告なりとして悦んで總べての事業との關係を絶ち一意專心、磐越銀行の經營に全力を傾注するを約し大和田氏、亦、中野氏の心事を諒として斷筆すること、なつた、流石に中野甲藏氏も男らしく何等の偏見も存せず、誠心誠意、公明正大の態度を持して地方財界安定のために全赤心を吐露し全努力と全誠意を表し大和田氏も潔く怨恨を忘れ公人としての立場より財界のために斷筆したのはエライ。中野、大和田兩氏の胸中は今や何等の妖雲なく共に地方啓發のために猛進することになつたのは近頃の美談であり兩君とも男をあげたものである。

平銀行改革論【一】
端山君は勇退すべし

主幹 久野眞宏

常磐財界の中心として穩健なる方針と堅實な取引との下に着々として發展振りを示してゐる平銀行は頭取山崎與三郎氏の人格と常務監査役にして法曹界の元老、新田目善次郎氏の手腕、並に往年、力進社問題で同行から三十萬圓の借入金をしたので其の穴埋めのため全財産を投げ出し裸一貫になつた上に未だ借財に苦しんでゐる縣議木村清治氏が常任取締役に納り先年の罪ほろぼしと御恩報じにと極めて眞面目に同行の發展のために努力してゐるのは其の心事は實に、いぢらしく再生したる木村氏のためにも同行のためにも氏の死的報恩奉仕の奮闘は尊いものである、支配人には町議佐藤芳松氏、主事に好々爺神谷辰五郎氏があり多士濟々、陣容堂々たるものがある、然るに先年、所謂利權組問題に關連して刑務所に收容され株主や一般預金者からも多大の不安を抱かれた前支配人端山正男氏が一時は同行から免職になつたが又もや、いつの間にかズルリ〳〵と同行に復活し主事と云ふ肩書の下に平然と同行に居据つた、然し實權は、佐藤支配人を凌ぎ事實に於ての支配人であると云ふに至つては驚くべき事である、予は平銀行を信用し同行の發展隆昌は常磐財界のために必要事であると論斷する一人として端山君の勇退を望み更らに同行の如何なる点を改革すべきが至當なりや否やを論究して見たい。以下、詳しく端山君の勇退論を述べ更らに平銀行の表裏から見たる改革論を記し株主及び預金者の參考に供したい、而して特筆したいのは端山君と予とは公私共に交際なく何等の恩怨もない事を附言する、讀者、幸に諒せよ。（續）

古河坑開山式

好間村古河炭礦では愈々、正式に事業開始する事となつたので去る一日、同所に於て莊嚴な開山式を擧行した、杉本所長、澤海副所長、實川坑内主任、安孫子事務主任等の幹部を始め全員協力、工費百萬圓を以て新設されたる斜坑に依つて事業を開始するに至つた、九月頃に至れば多量の出炭を見るべく好間村は勿論、平町も蓋し活況を呈するであらうと大なる期待を有せられてゐる。

磐中落成式

五日午前十時から磐中では新築落成式を擧行した、滑川校長の司會の下に縣有力者の參列を得て壯嚴に執行、式後、別室にて同窓生を以て組織された協贊會より來賓に盛大な祝宴があつた五、六の兩日は全校舍に美育展覽會を開きて一般に公開し七日は大運動會を催して磐中健兒の意氣を示したが、此の擧式に於て在校生と卒業生とが協力一致して此の盛典をあげたのは實に美しいもので現校長滑川一郎氏の平素の訓育が窺はれて頼しい

鈴木氏獅子吼

磐城經濟新報社長鈴木默鐘氏は本郡出身荒川精一、佐川潔兩氏の松島事件大演説會に招電に接して下阪、萬丈の氣焔を吐き一大獅子吼を試み大阪人士をアツと云はしめたが近く後藤新平子の來平と共に政界廓新、政治の倫理化のために一大躍進を始むるとて意氣天を衝くものがある

大越中佐銅像宙に迷ふ
公園は許されず、場所が無いので

元磐城中學校長植竹源太郎氏が畢生の事業たる大越中佐の銅像は、目下寄附募集中であるが第一に困つたのは建設場所で松ケ岡公園をと望んでゐたが風致を損すると云ふので町長は許さず全く宙に迷つた有樣で從つて殉職小頭綠川佐伯氏の胸像も同じく公園にとの希望であつたが是れも勿論、許されず、植竹さんと消防の連中とは、同じ意味と異なつた考へとで困りぬいてゐる。

「三筋」の出版

中世古清孝氏は今回、三筋と題し平町花柳界の藝者評判記を發行し百有余名の大姐小姐を一人殘らず總まくりをした。定價一部三十錢、平町紺屋町三筋社の發行で頗るの美本、賣行き飛ぶが如くである。

一番確實で簡便な
金融と利殖の方法
信用ある湯本無盡の新口募集

興味を持ちながら金もうけが出來て、夫れで確實な方法は定評あり信用ある無盡の利用である湯本町の湯本信用無盡株式會社は專務鯨岡誠祐氏の手腕と人格と信用とに依つて着々と聲價をあげて來た、泡沫會社が世に現れる毎に却つて同社の基礎確實なことが知れ渡つて好評又好評を博してゐるのは如何に同社の經營方針が健實なるかを立證するもので大藏省免許、無限責任で全國的に代表的會社だとの世論を生んだ。目下、募集中の新口五百圓會は拂込回數六十三回で一回の掛金八圓五十錢宛、二十日目毎に拂込むので是れだけの掛金は日當り僅かに四十二錢五厘で知らず知らずの裡に貯金が出來、金融方法も簡便だから思はぬ時に纏つた金が入つて來る面白みもあり會社は前記の如く健實だから不景氣時代に安全で面白くて手輕な金融と利殖方法だとの評判で會員申込が多い。

▲良品廉價に勝る商略なし▼
▲確實敏捷は釜屋の生命なり▼
磐城平町五丁目
電話九番・一三九番
和洋金物 銅鐵 問屋
釜屋商店
磐城セメント會社特約店